

JIA 国際交流活動支部事業報告書
 < 建築展 23 日韓合同学生ワークショップ >

北九州市を本部とする Web 開催 (北九州市、釜山広域市 他)

우암동 소막마을 일원 釜山広域市南区 牛岩洞地区ソマク村

우암동 소막마을은 과거 소막사로 사용되었던 구조물을 거주민들이 불법 개조와 증축을 통해 생활공간으로 탈바꿈되었으나, 아직도 일부 건물은 과거의 비닐판벽, 환기구와 지붕들의 원형이 보존되어있다. 牛岩洞(ウアムドン)ソマク村は、過去牛舎として使用された構造物を住民が不法改造や増築を繰り返して生活空間へと変容していた。まだいくつかの建物は、過去の下見板張の壁や、ハト小屋、屋根の形状等が保持されている。

1999년, 17,000평 부지에 5동의 우사(牛舎)와 사료조리소 시설 건립. 이후 농우양의 증가로 시설 확장(1999년, 17,000평의 면적에 농우양을 증가시키는 시설을 확충)을 반복했다. 농가 설비를 개선하고, 주민들이 불법 개조와 증축을 반복하여 생활 공간으로 탈바꿈했다. 그러나 아직 일부 건물은 과거의 비닐판벽, 환기구와 지붕의 원형을 보존하고 있다.

조선시대에는 어촌마을, 일제강점기 이후 항만매립공사 진행, 산업항구지역으로 발전. 朝鮮時代には漁村、日本植民地時代以來、港灣埋め立て工事進行、工業港エリアに発展. 광복 이후 해외동포 이주, 한국전쟁으로 피난민 유입, 경제성장기에 산업단지 조성으로 농촌인구 유입(国土回復後、海外同胞移住、韓国戦争で難民流入). 經濟成長期に産業団地の造成に農村人口の流入. 소막사를 주택으로 개조하여 세입자 받아들임, 소막사 단지 일대가 거대한 집합주택으로 변용. 牛舎を住宅に改造し、人が集い、巨大な集合住宅に変容していく。

【講師】
 2020年度 JIA新人賞受賞
 魚谷 繁礼
 (魚谷繁礼建築研究所)

建築展^{vol}23
 日韓合同学生ワークショップ
 【第2弾】
 保存でも開発
 でもない継承
 のあり方

10月24日(日)
 10:00 ~ 16:00
 中間講評会
 11月20日(土)
 10:00 ~ 17:00
 最終講評会、表彰式

(公社)日本建築家協会
 九州支部北福岡地域会
 JIA国際支援活動支部助成事業

大正時代の初め、
 三浦川に舟を積みだせば、
 船のいれを積みだせば、
 船を揚げて空気が、
 岸に荷を揚げて空気が、
 岸に荷を揚げて空気が、
 岸に荷を揚げて空気が、

卸と小売りの両方の機能をもった市場として成長した。小倉湾の潮が徐々に退き始めせりだす形の木造の小売店舗。太平洋戦争の影響による市場店舗の強制撤去。戦後闇市で復活。北九州市立大学の学生が運営「大學堂」

約120軒の鮮魚採魚市場

北九州の台所

起源は 大正時代の初め、三浦川に舟を積みだせば、船のいれを積みだせば、船を揚げて空気が、岸に荷を揚げて空気が、岸に荷を揚げて空気が、岸に荷を揚げて空気が、

浸水被害や木造建築物の密集や老朽化。旦過市場の発生は大正2年頃。2021年再整備事業開始

旦過市場

2021/11/20

九州支部

JIA 国際交流活動報告書

- 事業名： 建築展 23 日韓合同学生ワークショップ
- 主催者： 公益社団法人日本建築家協会九州支部
- 協賛・後援：無
- 事業概要： JIA2020 年度新人賞受賞者(魚谷繁礼氏)を講師に迎え、日本と韓国の学生達の課題への各提案に対して、Web を利用したリモート環境を主としながら、指導を目的とした中間講評会と講評を目的とした最終講評会をそれぞれ開催致しました。また、併せて課題及び対象敷地の発表時に魚谷繁礼氏による Web での公開講演会(韓国語逐次通訳)も開催致しました。
本年度は Web 上での日韓学生間の交流を促進するため、互いに相手国の対象地に提案を行うようなプログラムを検討し実施しました。また、対象地の選定と課題に対しても、事前検討委員会を設置し、講師である魚谷氏と選抜した日韓の学生達との協議により決定しました。
- 事業の目的: 日本と韓国の学生達の、課題を通しての交流による相互理解の醸成
JIA新人賞受賞者からの直接指導による教育効果
コロナ禍の社会状況にあつての教育機会及び新たな教育手法の創出
Web 公開により、一般市民への建築家活動の理解度を高めることへの寄与
- 実施場所: Web を利用したリモート開催(北九州市、韓国釜山、福岡市、大分県、京都府他)
- 参加者 : 九州支部 30 名(北福岡地域会 20 名 他地域会 10 名)
九州工業大学 11 名(2 チーム)
近畿大学福岡 4 名
北九州市立大学 6 名
日本文理大学 9 名
九州産業大学 8 名
九州女子大学 6 名
慶星大学(韓国)9 名
東西大学(韓国)5 名
東亜大学(韓国)5 名
釜慶大学(韓国)5 名
釜山大学(韓国)21 名(3 チーム)
その他各大学教授及び関係者 10 名

■実施期間： 2021.8.26～2021.11.20

■日 程： 8月26日～9月18日 学生実行委員会(事前検討委員会5回)

10月3日 魚谷繁礼氏公開セミナー、課題の発表、敷地のプレゼン

10月24日 中間講評会、Webによる国際交流会

11月20日 最終講評会、表彰式

■報 告：

○課題の意図

北九州市と釜山広域市は共に近代以降に港を主体として発展した工業都市です。都市の近代化による人口増加とともに自然発生的に集落や市場が出来ましたが、その後100年超の月日を経た今、それらの建築物は文化的な価値観の低い一群として扱われ、現在存続の危機の状況にあります。

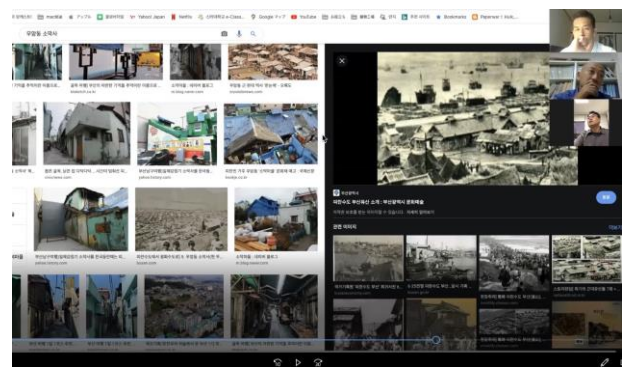
本年度の課題は、長年古都京都で長屋や路地の存続を建築活動の中で実践されてきた魚谷繁礼氏をお招きして、「保存でも開発でもない継承のあり方」をテーマに、改めて日韓の日常にある建築に対して、お互いがその価値を見出し提案する事により、日韓の近代の歴史を含めた相互理解の促進を行う事を目的としています。

○学生実行委員会について

本企画開催に関わる事前委員会として、講師である魚谷氏と日韓の学生、指導教諭も含め、お互いの対象敷地の選定、課題内容の協議等に関して5回の委員会を開催しました。日韓の課題に対しての意図の理解がうまくかみ合わず、参加した学生達は国際協議の困難さを体験する良い機会となりました。



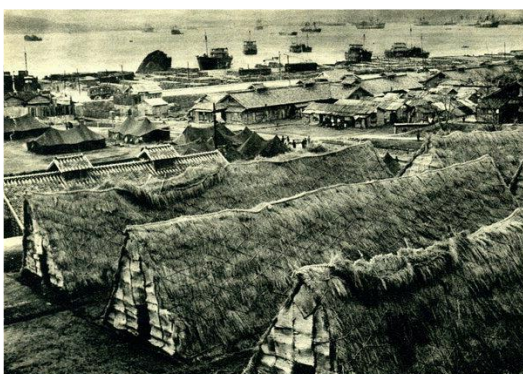
日本側対象敷地協議



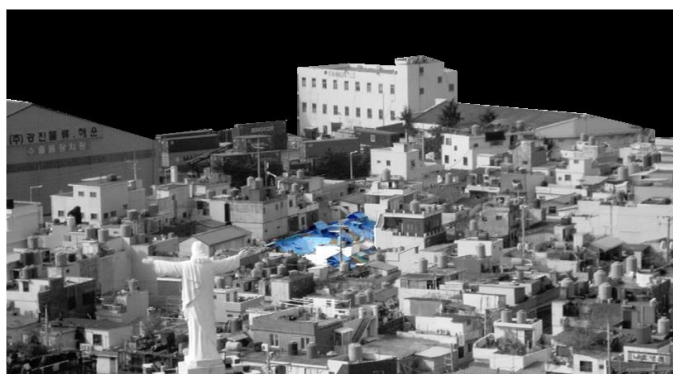
韓国側対象敷地協議

○韓国敷地について(日本側の提案敷地)

韓国の対象敷地である釜山広域市南区牛岩洞(ウアムドン)地区「ソマク村」です。漁村であったソマク村は、日本が韓国を統治した時代に日本向けへの韓国牛の輸出基地(牛舎、牛の検疫舎の建設)として開発が進み、その後、牛舎を戦後(朝鮮戦争含)の避難民の受け入れ住居として代替しながら増改築が進められた地区です。現在は都心低所得層への住居地区となっていますが、近代以降の実生活者の歴史的継続が建築的な変容のカタチとして残っており、「近代史文化空間再生プロジェクト」の対象として、新たな取り組みが始まっている地区となっています。日本の学生は対象地区に対して取り組む際には、日韓の歴史問題や現代の釜山における社会的な問題にも対峙する必要があり、国際ワークショップならではの考察と課題を通しての気づきに期待しました。



牛舎 (避難民用住居時)



対象街区 (現在)

○日本敷地について(韓国側の提案敷地)

日本の対象敷地である北九州市小倉の「旦過市場」は北九州地区にある最大の市場であり、城下町小倉 400 年の歴史を引継ぐ市場であると考えていますが、現状の旦過市場は、他の市場同様に近代以降の人口増加に伴い自然発生的に成立されており、それ故に既存建築物(木造、金属屋根仕様)の老朽化と防火面や機能面の不適格状態にあり、行政による再開発事業計画が既に始まっている地区となります。韓国チームには再開発事業計画の概要資料を提示しており、その中で、韓国(他国)の学生達が客観的に「旦過市場」を評価し提案する事で、改めて「旦過市場」の価値を問うとともに、現在進行されている再開発事業計画に対しても、説得力のある計画が提示できるのではないかと期待しました。



旦過市場現況



旦過市場上空写真

○発表について

<日本チーム>

既存に残る牛舎の骨格を残しながら、周辺環境に工夫をこらし、新たなコミュニケーションの創出やあり方に対して各チームが提案を行いました。但し、デリケートな敷地であったため、提案意図が中途半端になる作品も多く、各チームによる完成度の差があったように感じました。

敷地は旧市街の色合いが濃く、日本ではあまり見られない街区であったので、日本の学生達も敷地を通して、歴史の推移による街区の成立ちや対象地域のコミュニティについて想像・検討する必要があり、この課題で学べた事も多かったように感じました。

<韓国チーム>

対象敷地の規模の大きさと現再開発事業に対する課題であったため、計画のスケールが大きく、困難な課題だと当初感じていましたが、課題に準じて、残すものと開発するものとの区分を各チームが意識的かつ適切に行っており、その結果、バランスのとれたダイナミックな力作が多かったように感じました。また、プレゼン動画では日本語のナレーターや字幕を併用した日本への配慮がある提案が多く、提案作品を通じて、日本に対する理解への努力が伝わってきました。

○国際交流について

本年度はお互いが他国の敷地に対して提案する事で、作品を通して相互理解を促すようなプログラムを計画しました。意図としては、このワークショップ期間では、お互いが他国の事を主題として考える時間を設ける事と、現地には行けない状況の中、日韓の学生間同士が敷地に対して情報発信を行い、コミュニケーションを活性化出来るようにと考えました。結果として、残念ながら後者に関しては、企画者の思惑通りにはいかずに、Webでの国際交流の難しさを改めて感じる結果となったが、開催後にはお互いにそれを望む学生達の意見も多く、主催者側からのSNSを利用したサービスの提供を構築出来なかった事が反省材料として残りました。

日韓の提案に対しての学生間意見の反映としては「日韓学生賞」と題して、お互いの作品に投票するシステムを作り、学生間による評価を行いました。

発表自体は昨年同様に英語字幕をルール化したプレゼン動画の事前提出(及び事前視聴)を行う事により、お互いの提案の相互理解に一定の結果を残せたと考えています。

○最終結果(最終添付資料参考)

本事業は講師によるワークショップを主とする事業の為、提案作品の優劣は重要視していませんが、参加者のモチベーションの創出のための各賞を設けています。

また、本年度は最終的にコロナウィルスに関わる社会状況により、日本チームに関しては希望性での現地講評が可能な仕組みとしたため、韓国チームとの講評条件に差があった事も記載しておきます。

以下に最終結果を記載します。

- ・最優秀賞:九州工業大学 A
- ・魚谷繁礼賞:釜山大学B
- ・JIA 九州支部長賞:釜山大学C
- ・JIA 北福岡地域会賞:北九州市立大学
- ・魚谷繁礼 特別賞:釜慶大学
- ・日韓学生ワークショップ賞(日本):九州工業大学 A
- ・日韓学生ワークショップ賞(韓国):釜山大学C

講評者 :魚谷繁礼(2020 年度 JIA 新人賞受賞者)

:松山将勝(JIA 九州支部支部長)

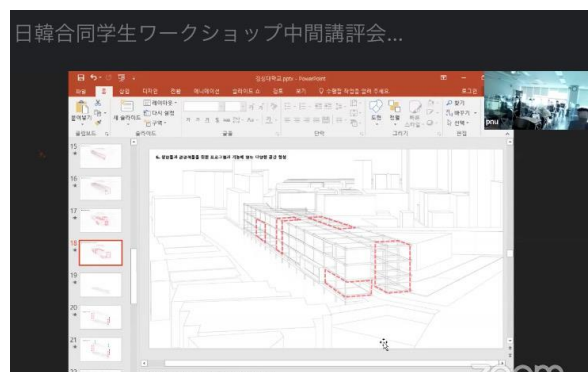
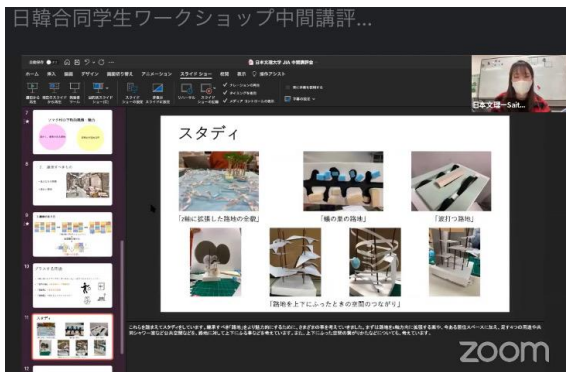
■報告書作成者:JIA 九州支部北福岡地域会 杉野友紀(地域会長)

JIA 国際交流活動報告写真

○魚谷繁礼氏公開セミナー(10月3日)



○中間講評会(10月24日)



素案のプレゼン及び魚谷氏からの指導

○最終講評会(11月20日)



釜山大学 B



東西大学



釜山大学 C



釜慶大学



慶星大学



九州女子大学



講評者(魚谷氏、松山氏)



九州工業大学 B



九州産業大学



表彰式



最優秀賞(九州工業大学 A)



集合写真(運営会場)

日韓学生合同ワークショップ事業【第1弾】



テーマ

「保存でも開発でもない継承のあり方」

建築展 vol.23

日韓学生合同ワークショップ事業【第1弾】

1部：本年度講師「魚谷繁礼」公開セミナー

2部：本年度課題及び対象敷地の説明

日時：10月3日（日）13:00～17:00

開催方式：Webによるリモート方式（Zoom）

対象者：日本の大学生、韓国の大学生、JIA会員

建築または当企画に興味のある一般の方

参加予定人数：100名

日韓学生合同ワークショップ事業【第2弾】

10月24日（日）10:00～16:00：中間講評会

11月20日（土）10:00～17:00：最終講評会、表彰式

CPD：3単位申請中。

単位取得希望の方は10月1日までにメールにて事務局までお申込みください。<要名前・CPD番号>

参加
無料

参加ご希望の方はメールにて事務局までお申し込みください。
ZOOMのミーティングID、パスワードを当日までに送ります。
【お問合せ】事務局 info@jia-kitafukuoka.org



セミナー・ワークショップ 講師

2020年度JIA新人賞 魚谷繁礼

魚谷繁礼 建築研究所

1977年 兵庫県出身

2001年 京都大学工学部卒業

2003年 京都大学大学院工学研究科修了

現在 魚谷繁礼建築研究所代表 京都大学、京都府立大学、京都建築専門学校で非常勤講師 2020年- 京都工芸繊維大学特任教授



(公社)日本建築家協会
九州支部北福岡地域会

JIA国際支援活動支部助成事業
まちづくり研究セミナー事務局

写真：「世の倉舎／世倉洋平」

우암동 소막마을 일원 釜山広域市南区 牛岩洞地区ソマク村

우암동 소막마을은 과거 소막사로 사용되었던 구조물을 거주민들이 불법 개조와 증축을 통해 생활공간으로 탈바꿈되었으나, 아직도 일부 건물은 과거의 비늘판벽, 환기구와 지붕들의 원형이 보존되어있다. 牛岩洞(ウアマドン)ソマク村は、過去牛舎として使用された構造物を住民が不法改造や増築を繰り返して生活空間へと変貌していた。まだいくつかの建物は、過去の下見板張の壁や、ハト小屋、屋根の形状等が保持されている。

-1909년, 17,000평 부지에 5동의 우사(牛舎)와 사료조리소 시설 건립 이후 축우량의 증가로 시설 확장 1909年, 17,000坪の敷地に5牛舎と畜必要施設建設後, 出荷量の増加により施設を拡張していった。

조선시대에는 어촌마을, 일제강점기 이후 항만매립공사 진행, 산업항구지역으로 발전
朝鮮時代には漁村、日本植民地時代以来、港灣埋め立て工事進行、工業港エリアに発展
광복 이후 해외동포 이주, 한국전쟁으로 피난민 유입, 경제성장기에 산업단지 조성으로 농촌인구 유입 国土回復後、海外同胞移住、韓国戦争で難民流入、経済成長期に産業団地の造成に農村人口の流入 소막사를 주택으로 개조하여 세입자 받아들임, 소막사 단지 일대가 거대한 집합주택으로 변용 牛舎を住宅に改造し、人が集い、巨大な集合住宅に変容していく。



建築展^{vol}23

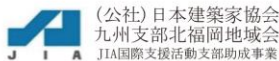
日韓合同学生ワークショップ
【第2弾】

保存でも開発
でもない継承
のあり方

10月24日(日)
10:00~16:00
中間講評会
11月20日(土)
10:00~17:00
最終講評会、表彰式

【講師】

2020年度 JIA新人賞受賞
魚谷 繁礼
(魚谷繁礼建築研究所)



起源は大正時代の初め、川のわしを積んだ伝馬舟網ごと川岸に荷を揚げ空き地で売買を始めた。一組、二組、三組の組と市屋のような仮設の店舗

卸と小売りの両方の機能をもった市場として成長した。小倉湾の潮が徐々に退き始めせりだす形の木造の小売店舗。太平洋戦争の影響による市場店舗の強制撤去。戦後鬧市で復活。北九州市立大学の学生が運営「大學堂」

約120軒 鮮魚 調味料 採食

北九州の台所

浸水被害や木造建築物の密集や老朽化。旦過市場の発生は大正2年頃。2021年再整備事業開始

旦過市場

建築展 vol.23 日韓合同学生ワークショップ

保存でも 開発でもない 継承のあり方

釜山も北九州も、規模の差こそあれ、近年、都市開発が進み、新しいビルが次々と建てられ、現代都市へと変貌を遂げている。

一方、両都市とも都市の中に残された古い下町の風情が印象的かつ魅力的でもある。

現在、そのような下町は開発に晒され、喪われ続けている。

このような下町は、居住環境や土地の有効活用の観点などから、その全てをそのまま保存するような対象になるとは考えにくい。

かといって開発により全てが取り壊されてしまうのも惜しいように感じる。

このような下町の風情を、そのまま全てを保存するでもなく、そのまま全てを取り壊して開発するでもない後世への継承のあり方はないだろうか？

一級の文化財とはいえ古い建築群についても再評価され始めている現在、その継承のための提案は、釜山や北九州に数多く残存する、対象地域以外の歴史的な下町のエリアにおいてはもちろん、国内外、様々な都市の同様のエリアにおいても有効たりえるだろう。

作成 魚谷繁礼 魚谷繁礼建築研究所



牛岩洞地区
ソマク村

釜山大学
東西大学
東亜大学
釜慶大学
慶星大学

九州産業大学
九州工業大学
日本文理大学
北九州市立大学
近畿大学
九州女子大学

参加チーム

旦過市場

日時 10月24日(日) 10:00～16:00：中間講評会
11月20日(土) 10:00～17:00：最終講評会、表彰式

講師



2020年度 JIA 新人賞受賞
魚谷 繁礼
(魚谷繁礼建築研究所)

九州支部北福岡地域会会員

淺田 典生	久保 直	戸村 一樹
安東 崇夫	熊谷 平一郎	豊川 裕子
安東 秀夫	後藤 友哉	永澤 正哉
石垣 充	佐久間 治	中條 雅文
石川 哲夫	佐藤 真紀	野田 幸三郎
石塚 直登	塩釜 直人	服巻 良樹
瓜生 雅勝	白川 直行	東 政志
衛 藤 衛	杉野 友紀	福田 展淳
大久保 裕文	鈴木 基正	藤田 孝行
大橋 久一	平 憲治	古森 弘一
小川 宏	高 崑 年	松岡 伸二
小原 光晴	高瀬 松之助	三島 逸人
加藤 史衛	高橋 雅彦	松島 靖史
金子 英造	高濱 和久	満井 輝吉

九州支部北福岡地域会所属事務所

㈱ A T O M 建築設計室	㈱ 小林 建築設計事務所	㈱ 東畑建築事務所	北九州支所
R & B 設計室(建築)	㈱ 佐藤真紀&FUN建築設計事務所	㈱ 東洋アンドアソシエイツ	
㈱ 安東建築設計事務所	㈱ 白川直行アトリエ	㈱ 中條雅文建築設計事務所	
㈱ 衛藤建築研究所	㈱ 杉野建築設計事務所	野田建築設計事務所	
㈱ 大久保計画アトリエ	㈱ スズキ設計	㈱ 古森弘一建築設計事務所	
㈱ 小川建築設計事務所	㈱ 西部交通建築事務所	PRAISE一級建築士事務所㈱	
㈱ 加藤建築事務所	㈱ 大建設設計	㈱ 満井設計	
㈱ 金子英造建築設計事務所	平建築設計事務所	㈱ 洋建築計画事務所	
㈱ 木賀設計事務所	㈱ タカシマ建築設計	ワークボックス一級建築士事務所	
㈱ 楠木建築設計事務所	㈱ 高橋環境建築設計	北九州市立大学	
㈱ 熊平建築設計事務所	㈱ 豊川設計事務所	九州工業大学	
㈱ 河野建築設計事務所	㈱ 高浜設計事務所	西日本工業大学	
㈱ C2とう計画・設計 福岡営業所	㈱ トークン設計	九州女子大学	

中間・最終講評会共、当日 Live 配信を予定しています。詳細は当地域会ホームページにてお知らせ致します。(QRコード参照)
また、このワークショップはCPD登録講習予定(各5単位)ですので、単位取得希望の方は各講評会の2日前までにメールにて事務局に申込をお願いします。

<要名前・CPD番号>※事務局の方よりZoom情報を案内致します。



DESIGN BY SUGINO ARCHITECTS OFFICE

【主催】(公社)日本建築家協会九州支部北福岡地域会【お問合せ】事務局 info@jia-kitafukuoka.org

告知ポスター(裏)

彩り

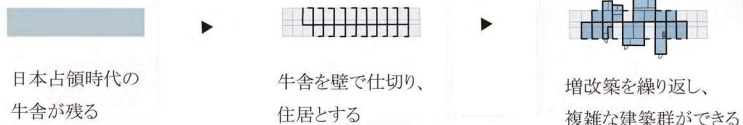
～人が変わっても空間が変わってもソマク村はつながる～

最優秀賞：九州工業大学 A

01. コンセプト

壁を増築することによって形成されたソマク村の住民は、壁の操作に慣れていると考えられる。壁の操作によって余白を生み出し、そこに彩りを与えていく。その彩りは時とともに何色にも変化し、ソマク村を継承していく。

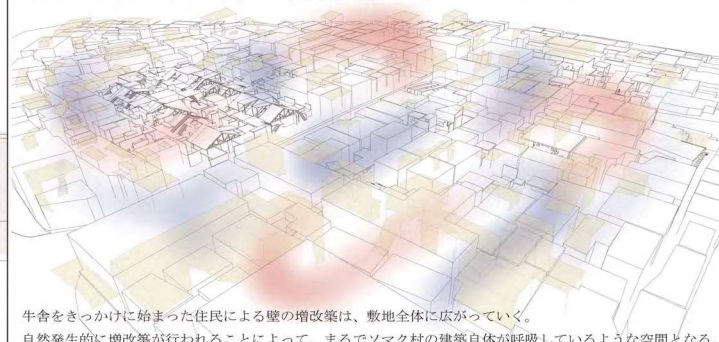
02. ソマク村の成り立ち



03. ダイアグラム



04. ソマク村の将来像



0 1 5 10 m

ソマク村の魅力の継承

<路地>

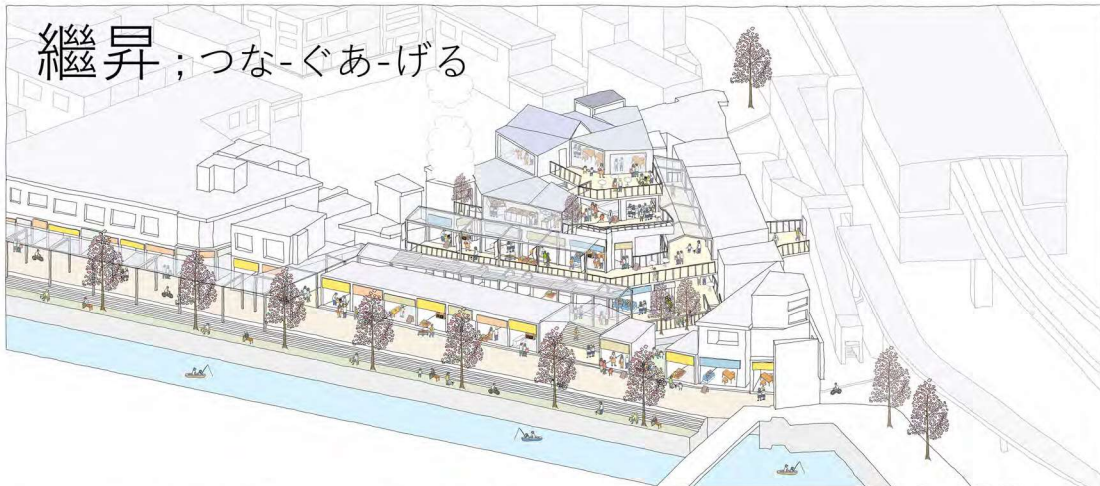
- ・迷宮性があり、冒険心をくすぐられる

<空き地>

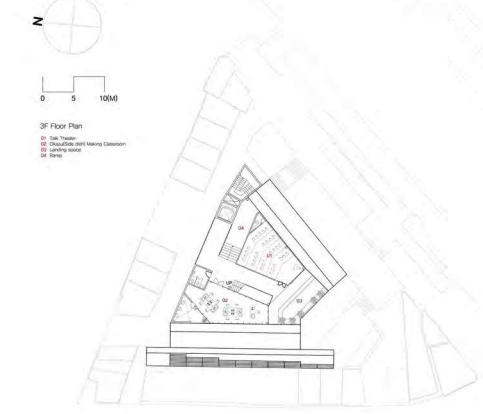
- ・路地の中にある開けた空間
- ・誰のものでもない
- ・以前使った痕跡が残る



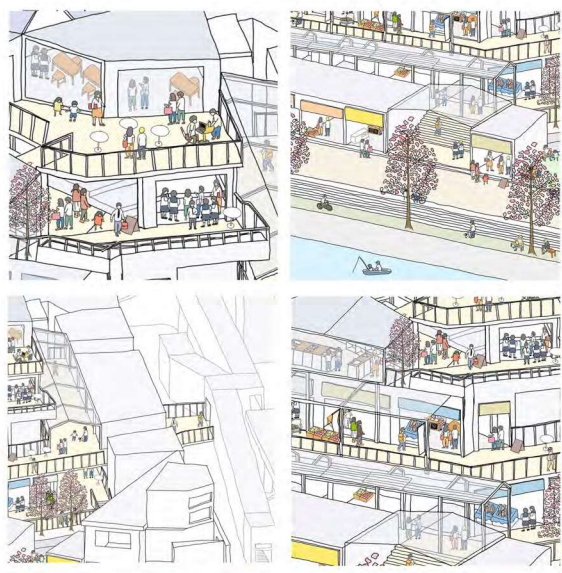
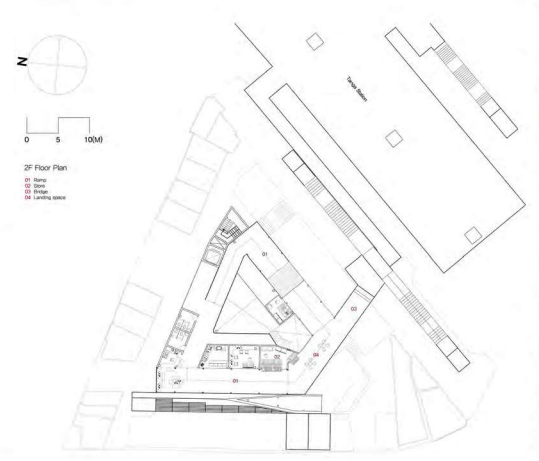
継昇；つな-ぐあ-げる



3F平面図



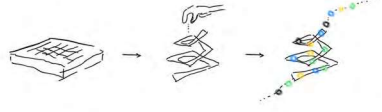
2F平面図



継昇；つな-ぐあ-げる

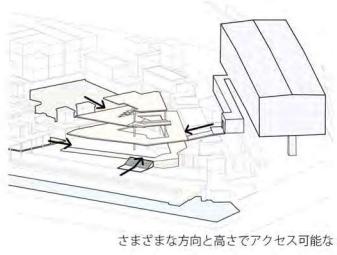
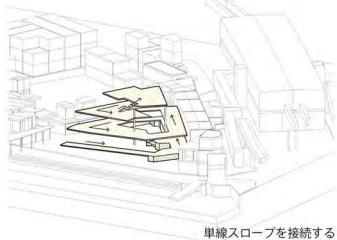
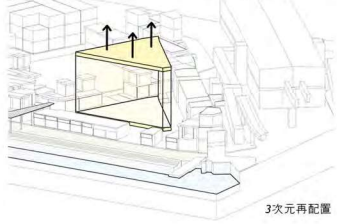
- 継承 / 継承(けいしょう)**
何かを継続する、または継承するさま別の存在から
- 승화 / 昇華(しょうか)**
何かが高い状態に達する。
- 継昇(けいせい)**
既存の状態を継続し、より高い状態に移行するために同じ時間をクリックします。

設計概念



既存の市場の雰囲気を持続発展させるためには、「継承」に対する新たな解釈が必要だった。継承に「従属、継承」を加えて「継承、継承」と再解釈することで、「何かを引き継ぐ」から「受け継いだものをより高い状態にする」という新しい意味を与える。継承は物理的および意味論的アプローチを通じて設計に吸収され、現れる。

設計プロセス

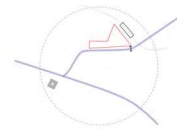


断面パース

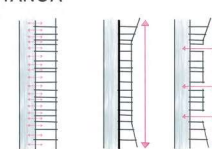




SITE ANALYSIS

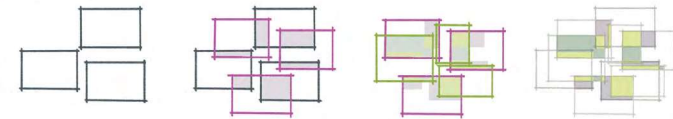


TANGA



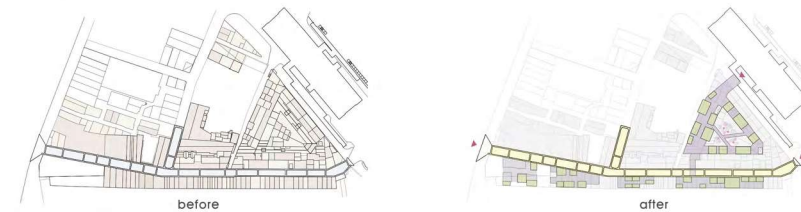
我々は現在の市場の道も活かし、断絶してしまった過去の市場の道まで包容し、それを軸として痕跡を活かしていきます。ポイント空間を通じて河川を眺めることができる空間を設けて、道を造成し河川との連続性を再び活かせるようにしようと思ひます

CONCEPT



且過市場は長い歳月の間刻まれた様々な痕跡がある、時間の灯が重なった空間だ。継承とは、未来に進む中で歴史が受け継がれるように過去の痕跡を残しておくことだ。空間の変化によって過去と現在の間の痕跡が生じる

SITE PLAN

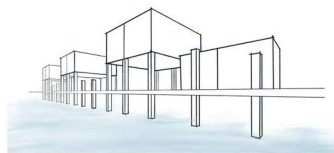


BEFORE

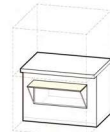
AFTER

DESIGN IDEA

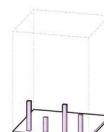
STREAM-LINE



piloti

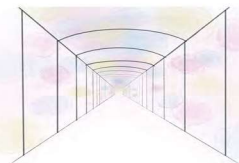


half of store



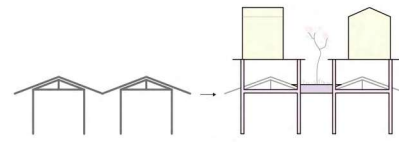
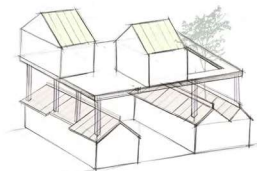
column

ARCADE



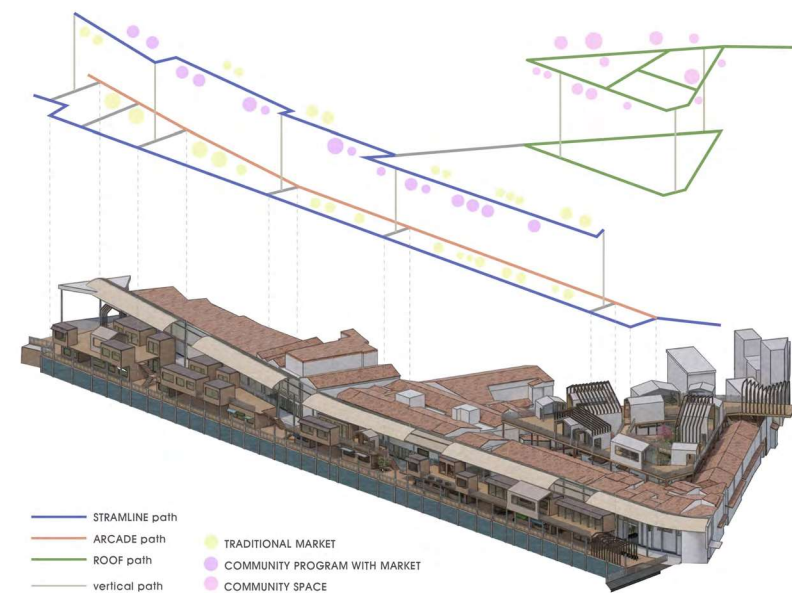
content
story from history to the present of TANGA

ROOF

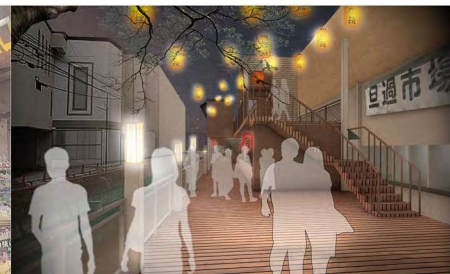


REINFORCEMENT and EXTENSION

PROGRAM



- STRAHLINE path
- ARCADE path
- ROOF path
- vertical path
- TRADITIONAL MARKET
- COMMUNITY PROGRAM WITH MARKET
- COMMUNITY SPACE



井 COMMUNITY

Tanga market remodeling plan for all generations

SITE READING

#1 The narrow and chaotic but friendly Tanga Market



IDEA

#1 Various scales of Tanga Market
The scale is an essential item to weigh the material and shows the passage of time in the tanga market.



#3 Reading "ナミヤ雑貨店の奇蹟"
I think the market itself should become a community space in the region by forming a new open community space for the daily experiences of many generations in the analog atmosphere of the market, and by connecting the empirical context of life as the times change.



MASS PROCESS

STEP 1



Forming a gap for clearing and resting areas on the 1st floor

STEP 3



Connecting pedestrian walkways on the 2nd and 3rd floors

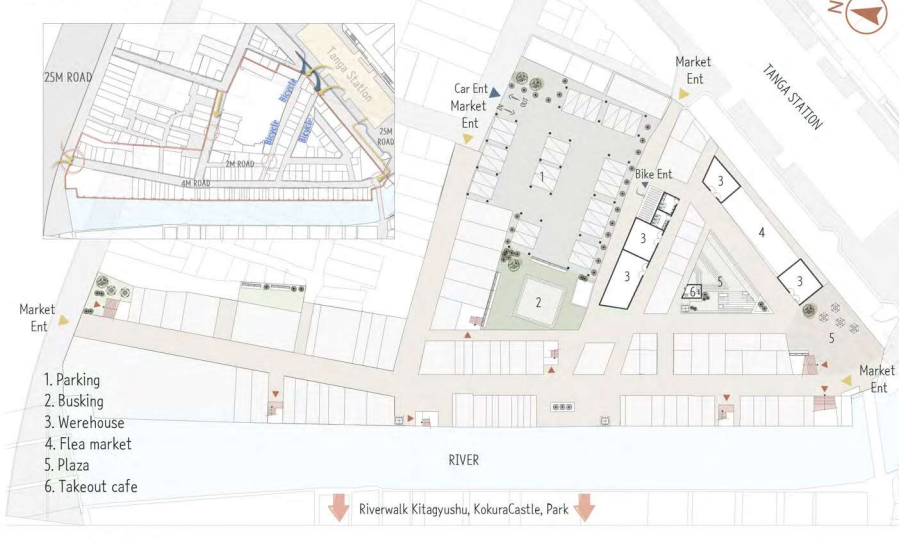
#2 Donburi at "大學堂"
The culture of walking around with rice and making rice with side dishes that suit your taste.



#3 Tanga Market, a space for all generations to come together
Tanga Market, where various generations can get a glimpse of the possibility of being together in the market through Daehakdang.



1F PLAN (SCALE 1:800)



2F PLAN (SCALE 1:800)



TOP PLAN (SCALE 1:800)



PERSPECTIVE



井 COMMUNITY

Tanga market remodeling plan for all generations

TEAM : PKNU(釜慶)



1. SYNOPSIS

- SITE : 4 Chome-2-18 Uomachi, Kokurakita Ward, Kitakyushu, Fukuoka 802-0006, Japan
- SITE AREA : about 8000m²
- FLOOR : 1F~3F

2. Gokura city

Gokurashi is a place where the past and the present are mixed. Kokura Castle, Tanga Market (Past)/ Riverwalk Kitagyushu, Kokura Station Arcade Shopping Center (Present)

2. SITE ANALYSIS & PROPOSAL

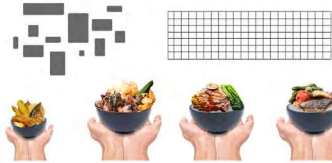


Tanga Market is also called Kitakushu's Kitchen, and has value as a traditional market such as a narrow and disorderly but friendly Tanga Market, a space for various generations, but its value is not well revealed due to the closed market atmosphere, aging buildings, and vacant rooms on the second floor.



Recognizing these problems and suggesting that various communities for each generation, a sustainable and nature-friendly market for the next generation, on the theme of "How to inherit the Tanga Market, a space shared by various generations."

3. IDEA & CONCEPT



The existing form of the market means the past (traditional), and the frame space means a (modern and future) cultural community space for residents/next generation.

井 COMMUNITY SPACE

What if the form of various side dishes that you choose and eat on top of basic rice is expressed in the space of Tanga Market?

4. PROGRAM

The area facing the waterfront forms a waterfront rest area on the first floor, and stairs and elevators connected to the upper floor are installed so that the second floor program can be used.

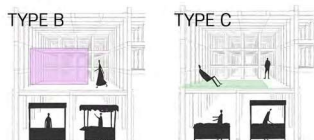
In addition, in the center of the market, the existing two-story space frame and roof were maintained, the walls were removed to connect the space, and community programs were deployed.

In this way, the programs connected to each district consisted of culture, hobbies, experiences, start-ups, and education that residents could use in their daily lives, and allowed generations to mix together.

- 2F PROGRAM



5. SECTION TYPE



Choose a space according to your taste from the frame newly installed above the existing shop on the first floor.

6. ELEVATION



Visualize the relationship between the market and people and consider the design in which the relationship itself becomes the exterior — It is possible to recall the past, present and future together with the internal appearances.

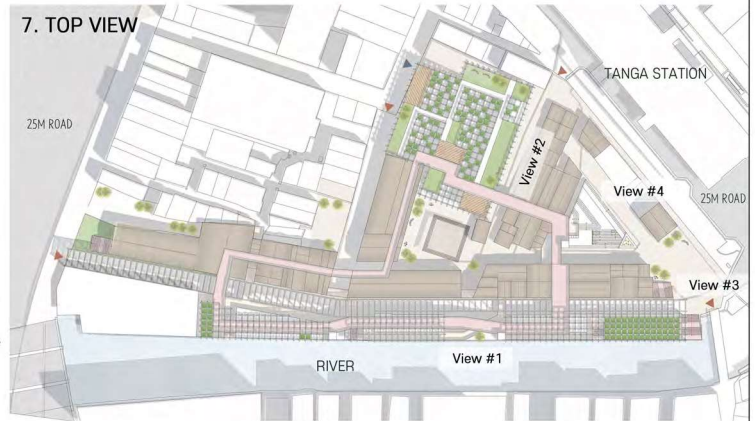
Including communication through experience by applying the vegetable garden program to the empty rest areas and frames.



View #1 waterside rest area



View #2 Pedestrian path/rest area above parking lot



View #3 View : Terraced seating area



View #4 Pedestrian walkway and square